

白馬村公共 下水道受益者 負担金問題調 査特別委員会

公共下水道受益者負担金の未収金について、平成23年9月定例会以来、たびたび議会が指摘をしましたが、当初行政からは平成13年度条例改正により債権は保全されているとの答弁がありました。その後、行政側で慎重に内部調査を進めたところ、未収金のうち約1億円が時効であるとの報告がありました。

このことについて白馬村議会としては、たいへん重大な問題と認識し、特別委員会を設置して再発防止のため、原因を調査していくことにしました。

「白馬村公共下水道受益者負担金問題調査特別委員会」は議員全員が委員となり、平成24年7月2日から今年1月22日までの間に10回開催し、今までの経過や状況について行政から説明を受け、事実関係について確認してまいり

ました。委員からの質疑に対しては行政の答弁には不明確な点が多く、その都度再調査をすることもありましたが、今日までのところおおむねの状況は把握できたと思います。

この間に平成24年8月2日、村長は村監査委員に対して、6月28日提出された村の内部調査報告について検証するよう監査要求し、11月27日、村監査委員よりその監査結果が報告されました。この報告では、村が算出した未収金額の正確さについては明言せず、住民に不公平感を抱かせ、行政への不信を招いたとして、理事者や職員らへの損害賠償請求の検討などを求めました。今後は過去の事実関係、状況調査を確認するため、役場の現職員及び既に役場を退職された方で、下水事業に関係していた課長以上の方を対象に意見を聞くことにしております。

この問題について事実関係を調査し、原因を究明し、二度とこのようなことが起こらないように対策を講じてまいりたいと思います。

議会研修視察実施報告書

研修視察の目的



太地町

①姉妹都市提携をしている和歌山県太地町を敬訪問し、開催中の「太地浦 くじら祭り」に参加して、太地町の議員と交流し親交を深め、また議会活動について情報交換をする。

②三重県多気町にある高校生レストラン「まごの店」を視察し、地域高校のあり方、教育の原点、経済効果、心理的効果、地域づくりについて研修する。

研修視察実施者

● 議会議員 11名

研修視察場所

● 和歌山県太地町「太地浦くじら祭り」
● 三重県多気町 高校生レストラン「まごの店」及び「ふるさと村」

研修視察日程

● 平成24年11月3日(土)
5日(月)

研修視察経費

自己負担 33万3625円
公費 28万1676円
合計 61万5301円

研修視察内容

● 和歌山県太地町「太地浦くじら祭り」

昔から捕鯨で全国的に知られた町であり、日本の古式捕鯨発祥の地といわれ、面積が和歌山県で一番小さく、大正14年に現在の太地町が誕生し、

その後、合併はしていない。人口は約3200人。昭和59年に白馬村と姉妹都市提携している。

毎年11月4日に開催される「太地浦 くじら祭り」イベント会場には出店やステージなどが設置され、住民や観光者などで1000人を超えるにぎわいの中、当村からも「そば打ち同好会」や役員関係者などが毎年祭典に協力している。議員定数は10人(女性はいない)、多選議員がほとんどで活発な議論を重ね活動をしている。



太地浦くじら祭り